狭山の元気 発見

躍 いきいき狭山人

県の養蚕の歴史とともに歩んで61年
製糸の歴史も技術も宝
後世に残すことが私の仕事です

明治から日本の輸出産業を支えてきた製糸業、その道一筋の人生を歩んできたのが小林嘉朗さんです。このたび、その功績が認められ、黄綬褒章、埼玉文化賞を受賞しました。

長野県の農家に生まれ、養蚕に携わる母親の姿を見て育った小林さんは、昭和26年に片倉工業㈱大宮製糸場に入社。平成8年に退職するまで、原料部門の担当や熊谷工場長として、養蚕農家への技術指導や繭生産資材の確保に努めてきました。「蚕は生き物で、養蚕農家にとって蚕の病気は大敵。そうならないように育てる技術を、農家さんに伝えて歩きました。みんなによい繭を作ってほしいですからね」と当時を振り返ります。誰よりも養蚕農家の立場に立って指導してくれる小林さんだからこそ、農家からの信頼は厚く、「蚕の先生」の呼び名で親しまれていました。

しかし、時代の流れとともに絹の需要が低迷し、製糸業者が次々と撤退していく中、片倉工業もその波にのまれてしまいます。小林さんは、「埼玉県の養蚕農家を守りたい」と、それまで同社に出荷されていた繭を一手に引き受け、販売する会社を設立しました。片倉工業で培ってきたノウハウを生かして、現在もすべての繭の販売先開拓や価格交渉と、県内の養蚕業を守っています。少なくなってしまった国産繭、生糸の希少性を生かした高品質な純国産絹製品を持続的に生産できるようにしているのです。

その良質な県産繭の中でも、さいたまブランド繭「いろどり」は別格です。埼玉県内でのみ飼育される蚕で、色は笹色、そして一般の白い繭にはない、抗菌作用（セリシン）を持っています。保湿成分も多く含まれ、小林さんは、これを企業に提供し、化粧品などの開発協力と、県産繭のイメージアップに尽力しています。

さらに、小林さんの活動の場は国内だけではなく、海外にも。平成9年には、フィリピン政府からの依頼で、フィリピン・ネグロス島に製糸工場を設立しました。何もない土地に桑畑を拓き、蚕を育てるところからのスタートでしたが、県繭検定所で不用となった製糸施設を移設しました。現地での指導を、社員と交替で熱心に行ってきた結果、製糸業が定着しづらい海外でも、フィリピンは安定した業績を維持しています。

小林さんは現在、養蚕、製糸の第一人者として、国の蚕糸・絹業提携支援センターで、マルチコーディネーターとして活躍する傍ら、養蚕や製糸に関する古い道具などを全国から集めています。「古い物は処分されてなくなってしまうでしょう。今は集めているだけだけど、そろそろ整理して、こういった歴史や技術を次の世代に残していかなければならないと思っているんですよ」と笑顔で語ってくれました。

小林さんの人生はまさに養蚕・製糸業の歴史そのもの。その貴重な経験を今後も紡いでいきます。

桑の葉と蚕

繭3種

小林さんが最後の工場長を務めた片倉工業㈱熊谷工場

埼玉県製糸協会会長
小林嘉朗さん（祇園）

いきいき自治会 つつじ野自治会（水富地区）

つつじ野自治会の四季。誰でも楽しめる行事を通じて、快適な住環境づくりに努めています

つつじ野自治会は、狭山緑陽高校、西中学校、広瀬小学校に隣接するつつじ野団地にあります。力を入れているのは、世代間のふれあい。春・秋の芋ほり、夏祭り、餅つき会など、四季折々の行事でさまざまな工夫を取り入れています。昨年末の餅つき会では、凧や紙飛行機づくり、輪投げなど、昔ながらの遊び体験を併せて実施したところ、団地を故郷とするたくさんの子ども達の参加があり、にぎやかな一日を過ごすことができました。

高齢者の豊かな経験や知識を生かしながら、良い伝統や心に残る体験を次世代に伝えていきたいと、まさに温故知新の志で頑張っています。

狭山歴史のしおり
権現橋（ごんげんばし）

堀兼地区には、「権現橋」という小さな橋があります。名前の由来は、たもとに子ノ権現が祭られていたこと。文政5年（1822）に造立された石塔には、「子大権現（ねのだいごんげん）」と刻まれています。また、その昔には、近くにあった塚の横に「子の権現さま」が祭られていたとも伝えられています。

足の病に霊験あらたかといわれる子ノ権現（飯能市）と関係があり、わらじや靴などが奉納されている光景もたびたび見られます。

今回紹介したものはホームページでも掲載しています。

【他の石造物】
月待供養塔
元禄2年（1689）造立
地蔵菩薩
享保4年（1719）造立
馬頭観音
元文5年（1740）造立

市民リレー 人 みんなでつなぐ

私の宝物 …

命を救ってくれたピッケル

小柴 耕（こう）さん
（狭山台在住）

私は、1960年代の後半に登山を始め、夢中になって日本百名山を巡りました。その登山に同行してくれたピッケルが、私の宝物です。

シャフトが木製のこのピッケルは、結婚を機に登山をやめた会社の同僚から譲り受けたもの。現在は、金属製のシャフトが主流ですが、握ったときの木の温もりが好きで、今でも愛用しています。

1980年の冬に忘れられない出来事がありました。那須岳に登った帰りのことです。突風に見舞われ、あとわずかで絶壁から落ちそうになったときに、このピッケルを地面に突き刺して難を逃れました。家でピッケルの手入れをしていると、そんな記憶も思い出されます。

今後も体力作りに努め、九州の屋久島や北海道の大雪山など、すべての百名山を制覇することが今の私の夢です。

山登りには欠かせない相棒

次回は、東三ツ木にお住まいの方を紹介します。

ハロー 仲間たち Vol.389

クラシックバレエ ビーナス

「『白鳥の湖』や『眠れる森の美女』を上手に踊ってみたいね」。そんな子ども達の何げない会話から生まれたのがこのサークルです。

毎週木曜日の夕方、入曽公民館で行われるレッスンは、ストレッチに始まって、バーレッスン、センターレッスンへと進みます。バーレッスンは、バーにつかまりながら基本の動き、センターレッスンは、フロアに出て動く練習です。最初は、ふらふらしていた子ども達も、だんだん慣れてきて「バレエを踊っている」という感じを楽しめるようになってきました。

今は、少ない人数で活動していますが、これから一緒に頑張れるたくさんのお友だちの参加を待っています。みんなで、元気いっぱい踊りましょう。

問合せ 安藤睦子さん（18時以降）へ ☎090-9313-2713